

# はばたき

大分大学教育福祉科学部

附属小学校便り No.6

平成27年11月25日

つながる～附属小学校の取組

指導教諭 山田眞由美

これまで学校便り「はばたき」では、今年度特に力を入れて取り組んでいる「無言掃除」「気持ちのよい挨拶」「トイレのスリッパ」や「英語力の向上」「フリートーク」などについて紹介してきました。これらの取り組みを進める中で、子どもたちは確実に力を付けています。また、子どもたちのこのような姿は確実に私たち教師の力にも繋がっています。国も現在、特に小学校高学年における教科化及び中学年における外国語活動の導入に向け教員の指導力向上に大きな課題を抱えており、地域の教員を指導することのできる人材育成に力を入れています。そこで本校も今年度、文部科学省に6年担任の田代教諭を合計2週間派遣しました。その際、本校の指導実践が高く評価され、本校児童の英語の授業の様子を同省の作成する教材DVDに使いたいという要請がありました。全国で2校が選ばれ、このDVDは、全国の学校に配布され、教員の指導力向上に活用されるものです。これも「英語力の向上」に全校あげて子どもと教員がともに誠実に取り組んだ成果の一つの表れだと思います。

今回は、半年間の取組の成果とも言える5年生の修学旅行の様子をご紹介します。

## ～ 5年生の修学旅行で見えた、確実な成長 ～

5年学年主任 秦 潤一郎

5年学年便り『みがく子176号』の最後に、「来週の修学旅行、子どもたちはきっと修学旅行のテーマである“団結”の姿を見せてくれると信じています。」と書きました。結論から述べます。実に立派で、素晴らしい団結の姿を見せてくれました。

1学期の香々地宿泊学習を終え、宿泊的行事においては、①時間の見直し、②好き嫌いなくしっかり食べること、2点の課題が残ってしまし

た。それに今回の③公共の場の意識と立ち振る舞いを加え、以上3つの課題を修学旅行前日にみんなに伝えました。あえて、「協力・チームワーク」や「男女仲良く」「班としての動き方」など、団結を想起しやすいような言葉は出ませんでした。迎えた修学旅行。初日から、班長や副班長による「あと〇分だよ」「〇時に集合ね」などという声が様々な場面で聞かれました。結果、ほぼすべての班が集合時間前に整列して待機しているという、驚くべき成長を見ることができました。また、お好み焼き屋でずらりと白いお皿だけが並んでいる姿は壮観でした。



公共の場の意識も、誰にでも挨拶ができたとともに、様々な反応やお礼が進んでできる点は誇らしい一言です。京都の街や宿泊所でも、周りを意識した動きが見られたとともに、シーツなど綺麗にして部屋を後にしたことも、次の相手のことまで考えて行動ができていたと言えるでしょう。

子どもたちの努力により3つの課題を見事に乗り越えてくれましたが、いずれも一人では乗り越えられません。互いに声を掛け合い時間を伝える、声を掛け合い食事をしようとする、声を掛け合い挨拶する、その“声の掛け合い”が、結果的に班の、学級の、学年の団結へとつながっていききました。特に班行動で度々見られた「男女関係なく、班行動を最優先に動く」という姿は、私自身「5年生でここまでできるのか」と思うほど、実に立派な姿でした。

上記のような友だち同士の団結は、班を超えて大きなコミュニケーションにもつながりました。京都大学生との長縄交流や外国人との京都自主研修では、初めて会った人とは思えないほど積極的に交流しました。結果、長縄は短い時間であったにもかかわらず一気にパワーアップ、英語でのコミュニケーションも格段に幅が広がり、英語で会話することへ

の自信も一層高まりました。



他にも、旅行会社の方、看護師の方、カメラマンの方、バスガイドの方、各地の案内役の方など、すぐにうちとけ、笑顔で自然にかかわっていました。このコミュニケーション能力の高さは、他ではあまり見られない、みがく子ならではの“グローバル力”だと感じます。実際に、関西地方の様々な場所で、様々な方から驚きと称賛のお言葉をたくさんいただきました。「ちょっと一言いいですか？」と、直接褒めていただいたことも度々ありました。

このような団結力とコミュニケーション力の高まりは、同時に、

周囲の状況を考えること、正しい方向へと自らを律して行動することの力も高まっているのだと思います。それはまさに、高学年、いや、来る最高学年としての必要な力が備わってきているのと言えます。

この修学旅行を通して、私たち担任一同みがく子に一層誇りをもてました。もっと子どもの力を信じて任せてみようと思いました。今回の努力と成長を踏まえ、さらに大きな成長を遂げられるよう、さらなる高い課題を設定し、今後も風通しのよい本校教職員の最高のチームワークをベースに努力と挑戦を続けてまいります。5年生の保護者の皆様には、当日までの健康管理から持ち物の準備等、修学旅行に向けた様々なご協力、誠にありがとうございました。修学旅行を終えた児童のふりかえりには、「こんな最高の修学旅行を経験させてくれた両親

に感謝したいです！」という感謝の言葉がたくさんありました。

<子どもの日記より>この修学旅行で学んだことは「団結」の大切さです。今まで交流できなかった友だちとも話すことができたうれしさもありました。1日目のバスや新幹線の乗り降りは1分1秒を争う状態でした。その中で予定通り進められたところはよかったです。もう1つ、公共の場を意識し、お土産を買うときにレジを譲ってお礼を言われ気持ちよかったです。夜は松本旅館に泊まりました。感謝の気持ちを伝えるためにあいさつに心がけました。2日目の外国語研修では、最初は不安だったけれど、今までやってきたことをすれば絶対成功すると思いました。そしてうまくコミュニケーションをとり、心が通じ合うことができました。～略～この3日間の修学旅行でみがく子全員の仲が深まり、団結できて協力し合えました。明日にもこのことを生かしたいです。

秦教諭の文章からもわかるように、子どもたちは日々の取組で身に付けた力を修学旅行で発揮し、また一回り大きく成長していったのです。5年生はもちろん全校で取り組んでいる「気持ちのよい挨拶」や「英語力の向上」「フリートーク」が、お世話になった旅行会社の方や外国の方、初対面の方との「コミュニケーション力」へと。「無言清掃」や「トイレのスリッパそろえ」は「自らを律し行動する力」へと繋がったのだと思います。



5年生は、今回の修学旅行だけでなく朝掃除や歌声発表会の歌なども「毎年5年生がやっているから」という理由ではなく「なぜするのか」「なんのためにするのか」「どんな力を付けるのか」を子どもと教師で真剣に話し合い「本物」の活動にこだわっています。そのことが高い団結力へと、そして、

この先全校を引っ張る力へと確実に繋がっていくことでしょう。